

奥州遺産

No.75

ときを越え
受け継がれるもの

荒谷のイロハモミジ

Ⅱ 前沢区生母字荒谷 Ⅱ

北上川と東稲山に挟まれた前沢区生母地区。赤生津地区コミュニティセンター近くの大石家の庭にそびえる2本の大樹が、荒谷のイロハモミジだ。

イロハモミジの自生地は福島県以南であり、荒谷のイロハモミジは大石家の先祖が京都から苗木を運んだと伝えられている。植樹時期は定かではないが、1号木の推定樹齢は580年。江戸時代には既に見物客があったという。四季それぞれに色を変える葉は人々を楽しませ、梅雨時に垂れる枝葉は「龍の玉つかみ」とも呼ばれている。

昭和54年に旧前沢町の天然記念物として指定を受けた2本。その苗木は平成19年から行われている「イロハモミジの森づくり」に用いられ、山間地の環境づくりと環境教育に役立っている。移りゆく時代に変わらぬ趣を伝えてきた荒谷のイロハモミジ。その姿は地域と人々の心に根付き広がっていく。



1目通回り3.6m、樹高約10mの1号木は大きさ・樹齢ともに県下一。例年11月上旬に紅葉の見頃を迎える 2目通回り3mの2号木の推定樹齢は300年。1号木よりも紅葉の色付きは遅く、真っ赤な葉が雪を被ることも 3旧赤生津小と旧母体小の卒業児童が杉の伐採跡地に植樹を行った“イロハモミジの森づくり”。小学校統合後は、いって生活協同組合と生母生産森林組合が協定を締結し活動を続けている



広告

